

HP UPS T750

インストール

インストラクション

HP UPS T750

概要

HP UPS T750は、最大750VA/500Wの負荷を電源障害から保護します。

このカードで説明する項目について詳しくは、UPSのユーザ ガイドを参照してください。

注意事項

このカードを大切に保管しておいてください。このカードには、UPSとバッテリーの取り付け、操作、およびメンテナンスの際に従うべき安全に関する重要な注意事項が示されています。

- 警告** : 高電圧による感電の危険があります。オプションの取り付け、この製品の定期点検および保守については、**AC電源製品の取り扱い手順、注意事項、および危険性を熟知している専門の担当者が行ってください。**

- 警告** : 漏電による感電を防止するために、次の点に注意してください。
 - 商用電源との接続が切断されている状態で**UPS**を操作しないでください。
 - UPS**と商用電源の接続を切断する前に、負荷装置の接続を切り離してください。

- 警告** : けがを防止するために、**UPS**を搬入する際は、十分なスペースを準備し、ご使用の地域で定められた重量のある装置の安全な取り扱いに関する規定に従ってください。組み立て完了後の**UPS**の重量は**13.6kg**あります。

電気要件

- 警告** : 火災や感電を防止するために、装置は温度および湿度調整が行われ、導電性の汚染物質のない室内に設置してください。

バッテリー再充電日付の確認

UPSの開梱前に、梱包箱に貼付されているバッテリーの再充電日付ラベルを確認してください。

- 重要** : 再充電日付を過ぎたバッテリーを使用しないでください。バッテリー再充電日付ラベルに示されている日付を過ぎているのにバッテリーを再充電していない場合は、HPのサービス窓口にご連絡ください。

UPS キットの内容

- 『安全に使用していただくために』ガイド

- このカードやドキュメンテーションCD

- 保証情報

- UPS

- バッテリー モジュール（取り付け済み）

- フロント ベゼル（取り付け済み）

- 通信ポート/オプション スロット（取り付け済み）

- シリアル コンピュータ インタフェース ケーブル

- USBコンピュータ インタフェース ケーブル

- 負荷装置電源用ジャンパコード

HP Enterprise Infrastructure Solutions Management Pack CDを所有している場合は、CDを使用してHP Power Managerソフトウェアをインストールしてください。HP Power ManagerおよびUPSファームウェアの最新バージョンをダウンロードするには、HPのWebサイト http://www.hp.com/jp/servers/ups_manageを参照してください。

バッテリーの接続

- 警告** : この装置には、密閉式鉛蓄電池モジュールが入っています。発火や化学火傷を防止するために、次の注意事項を守ってください。

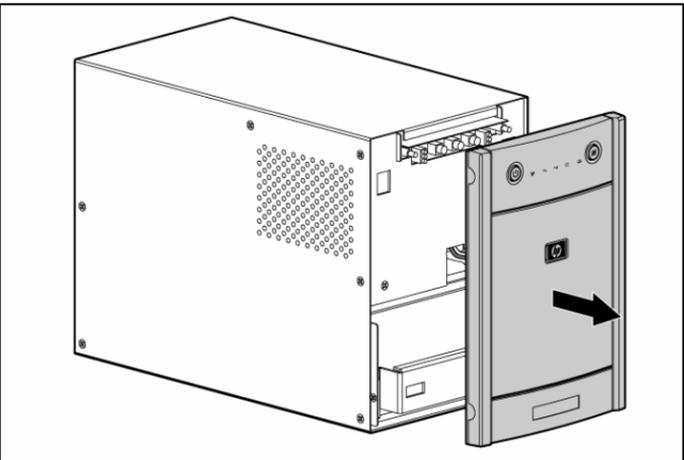
- 装置から取り外した後のバッテリーを再充電しないでください。
- バッテリーを分解したり、つぶしたり、穴を開けたりしないでください。
- バッテリーの外部端子をショートさせないでください。
- バッテリーを水に浸けないでください。
- 40°C**以上の高温にさらさないでください。

- 警告** : 高電圧による感電を防止するために、次の点に注意してください。

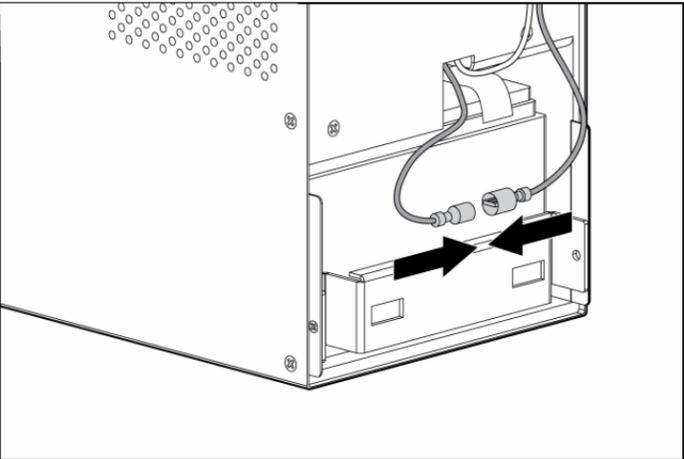
- 腕時計、指輪、またはその他の金属製の装身具を外してください。
- 絶縁材でできた持ち手のある工具を使用してください。
- バッテリーの上に工具や金属製の部品を置かないでください。

- 重要** : 以下の作業を実行する前に、装置の電源を切り、商用電源から切り離してあることを確認してください。

- UPS用フロント ベゼルを取り外します。



- 負（黒色）のリード線をバッテリーの負端子に接続します。



- 注** : バッテリーを接続する際に、多少のアーク放電が発生することがあります。これは正常な現象であり、装置が損傷したり安全上の問題を示したりするものではありません。

- UPS用フロント ベゼルを元に戻します。

© Copyright 2004, 2006 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。HP製品およびサービスに対する保証については、当該製品およびサービスの保証規定書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、脱落に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。

本製品は、日本国内で使用するための仕様になっており、日本国外で使用される場合は、仕様の変更を必要とすることがあります。

本書に掲載されている製品情報には、日本国内で販売されていないものも含まれている場合があります。

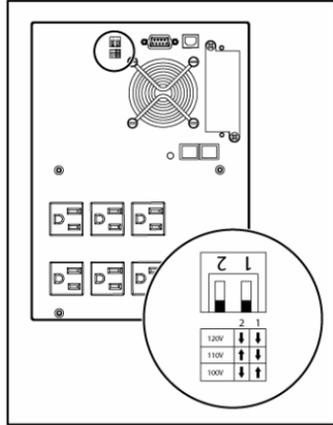
2006年3月（第3版）
製品番号 382248-023

Printed in China

UPS の電圧設定の選択

重要：日本における標準の入力電圧は100Vとなります。下の表を参照して、出力電圧が100Vの場合のDIPスイッチの設定を行ってください。

小さな工具を使用して、UPSのリア パネルおよび次の表に記載された必要な電圧設定に従って、DIPスイッチの位置を変更します。



注：アスタリスク (*) は、デフォルト設定を示します。

	出力電圧	入力電圧範囲	DIP スイッチ2	DIP スイッチ1
T750	100V	90~106V	下	上
	110V	99~116V	上	下
	120V	108~127V	上	上
	120V*	108~127V	下	下

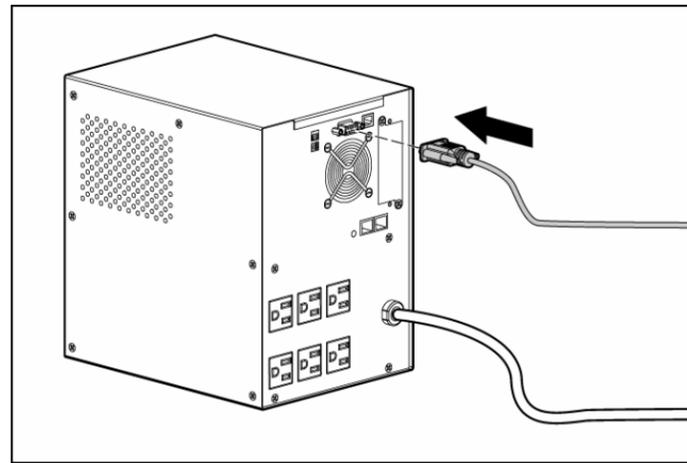
ホスト コンピュータの接続

注意：通信ポートとホスト コンピュータとの接続には、UPSに付属のコンピュータ インタフェース ケーブルのみを使用してください。

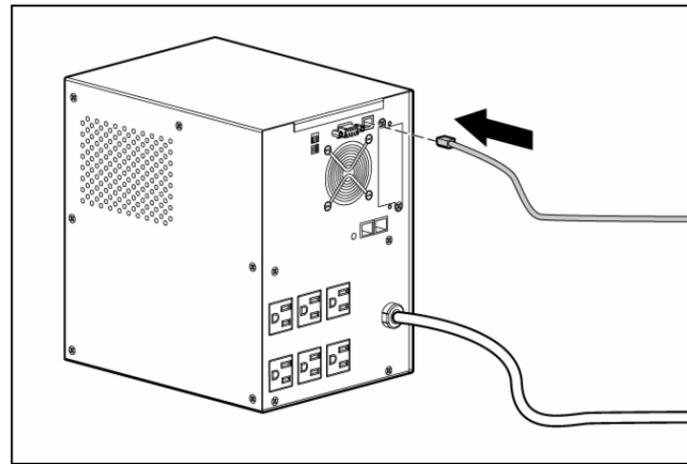
UPSに同梱のUSBケーブルまたはDB9シリアル ケーブルを使用して、UPSをホスト コンピュータに接続します。HP Power Managerソフトウェア4.0以上をホスト コンピュータにインストールします。HPのWebサイトhttp://www.hp.com/jp/servers/ups_manageを参照して、最新バージョンのHP Power Managerをダウンロードしてください。

注：ソフトウェアのインストールと設定については、ソフトウェアのユーザガイドを参照してください。ソフトウェアのユーザガイドは、HPのWebサイトhttp://www.hp.com/jp/servers/ups_manageからダウンロードできます。

シリアル通信ポートの接続



USB 通信ポートの接続



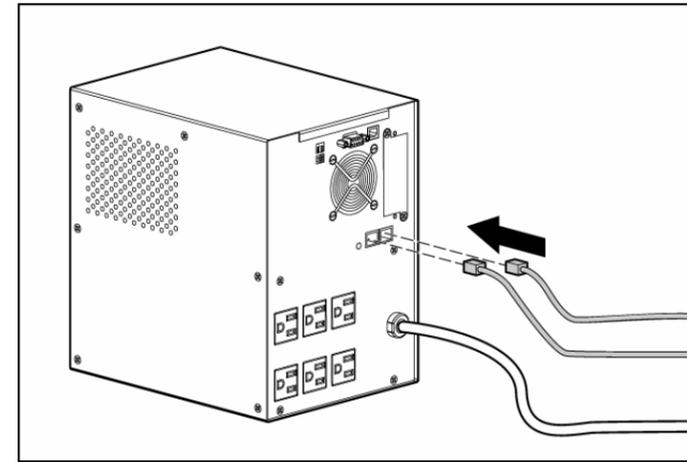
サージ プロテクタの接続

注意：装置の損傷を防止するため、サージ プロテクタは標準の電話回線でのみ使用し、デジタルPBXでは使用しないでください。

装置をネットワーク データ回線経由のサージから保護するには、以下の手順を実行してください。

1. モジュラー ジャックとUPSのサージ プロテクタのINジャックを接続します。

2. 装置をUPSのサージ プロテクタのOUTジャックに接続します。



UPS の商用電源への接続

警告：感電や装置の損傷を防止するために、次の点に注意してください。

- 入力電源コードは、簡単に手の届くところにある装置付近のアース付きコンセントに接続してください。
- 入力電源コードのアース付きプラグは必ず使用してください。アース付きプラグは、安全上重要な機能です。
- 延長コードは使用しないでください。

UPS電源コードをアース付き商用電源コンセントに接続します。UPSを接続すると、バッテリーの充電が始まり、サージ保護専用指定された出力ソケットから電力が提供されます。装置の電源を入れるまで、サージおよびバッテリー バックアップ用に指定された出力ソケットで電力は提供されません。

UPS への装置の接続

注意：バッテリー バックアップ保護用に指定されたUPSの出力ソケットに、レーザー プリンタを接続しないでください。レーザー プリンタは瞬間的に電流を消費するため、UPSが過負荷になる可能性があります。消費電力の大きい装置はすべてサージ保護専用の出力ソケットに接続してください。

装置を接続する前に、装置の定格がUPSの容量を超えていないかどうかを調べて、UPSが過負荷にならないことを確認します。装置の定格がアンペアで記載されている場合、アンペアの数値に120を掛けて、ボルトの値を調べてください。

UPSが過負荷にならないことを確認したら、装置の電源コードを、UPSのリア パネルにある出力ソケットに接続してください。

UPS バッテリーの充電

UPSの運用を開始する前に、バッテリーを充電してください。

重要：バッテリーを使用して装置へのバックアップ電源を供給する前に、少なくとも24時間充電してください。バッテリーの充電状態は次のとおりです。

- 4時間以内に容量の90%
- 24時間以内に容量の100%

UPS の電源投入

UPSからピープ音が鳴るまでPower On/Standbyボタン (1) を押し続けます。電源LEDが緑色で点灯し、UPSの出力ソケットで電源が供給されていることが示されます。

